方法に従わなかったが、それにもかかわらず上手く状況を処理したと感じた経験について語った。ここでも（この章の前の部分で論じたように）注目されたのは、石綿の危険に対する意識が確立し、広報される以前の、かなり遡った過去において起こった極端な経験が主であった。このような習慣は撲滅されてはいないものの、今ではかなり減っていると認識されていた。このような経験は今日の労働者には関係がないと過小評価される可能性はあるが、確かに幾通りにも影響を及ぼすようである。

より最近の経験は、見え透いた無関心と言うよりは、安全予防措置に対する尊重が欠如しているゆえに起こる手引きや状況の誤解が主なものであった。作業者たちは、一般的にその業界で横行しているものを表すと思われる悪い習慣も強調した。そのような例では、彼らは悪い習慣に直接携わったのではなく、目撃者であった場合が多かった。

6.6.1　古き悪き時代

過去のよりドラマティックな悪い習慣の経験は、今日の危険に対する懸念をも圧倒するようである。かつてより曝露の量は大分減ったと感じられている場合、または石綿の識別がより難しい場合、それにまつわる危険という意味では軽視されることがしばしばである。多くの回答者は曝露の可能性のある繰り返し起こる小さな出来事が、「石綿のある環境で作業をしている」ということを意味するとは全く認識していなかった。

作業者たちは大体において、以下のような状況に注目する傾向が見られた：

- その材料が、明らかに石綿として知られているものであった
- 視覚的に、しかも相当な量の繊維が放出されていた
- 保護具が全く用いられていなかった

年配の回答者たちが「自分にとっては手遅れ」という根拠で、現在の仕事における危険を否定する一方（第3章を参照のこと）、皆がそうであるわけではなく、多くの年配の作業者たちは60代であっても未だに自分を護ることに熱心であった。

例 9：埃を大量に出す

何人もの個人が石綿耐熱ボードの不注意な破壊や、平らにつなぎ合わせるため板を切るために研磨機を用いたこと、そしてしまいには埃まみれになったことについて語った。一人の人は民間部門にて仕事をした経験、および 35 年前に石綿との接触があったことを回想した。誰もその危険を知らなかった頃、彼は頻繁に石綿にドリルをかけていた。

「いいえ、彼等はそんなこと無かったと思いますよ。気にせず続けろ、ってね。ひどいものです。私の目の前にチェーンソーの切りくずが飛んできましたよ、あちらこちらに。昔はそうだったのですよ。」

電気技師、56 歳、大企業の従業員、非住居建築物取り扱い

例 10：金属スクラップの回収

多くの解答者は、例えば銅製のパイプから石綿の断熱材を取り除くなど、金属スクラップを回収するためにいかにして石綿を破壊したか、または他の人が金属スクラップを回収するところを見たことなどについて語った。

特に、石綿関係の危険を強く認識している一人の人は、15 年前の墓地での仕事を思い出していた。彼は他の 3 人と共に屋根を取り除く仕事に雇われていた。彼は監督から、非常にはっきりと、またきっぱりと、死体安置所は石綿だらけなので決して入ってはいけないと指示されたのを思い出すのである。しかしながら、その監督が彼と 3 人の同僚をその現場に連れて行くと、死体安置所のドアは取り除かれ、石綿も取り除かれてあった。監督はその現場で仕事をしていた別の作業者、レンガ積み作業者に、石綿を取り除いたのは彼であるか尋ねたところ、そうであることがわかった。その回答者は、レンガ作業者が石綿を捨てたスキップから石綿を取り出すように言われた。しかし彼はそれを拒否し、帰宅した。

「だから私は 4 人の仲間に言ったのです、『君たち次第だよ。君たちがどうするつもりか知らないけど、僕は電車で家に帰る。こんなこと、僕は全然気にいらないね』と。私はレンガ積み作業者に言ったんです。『何であんなことしたんだい？』　すると彼は、『ああ、邪魔だったからね。連中はスクラップする銅を取り出したかったんだよ』と言いました。私は、『多分それは自殺行為だよ、(名前)』と言いました。　でも実は彼は死んでなんかいなかったのですけどね。この間彼に会いましたよ！　でも言っておくけど、彼がどんな状態だったかは、私は知りませんよ。石綿の傷跡を持っていたかもしれない。私は知りながら石綿のあるところで仕事をしたことは決してないのですが、それでも肺には石綿の傷跡がある。どこもそんなことをした覚えのあるところは無いです。いつも石綿に出くわしたら、もう何年もずっと、そこから去りましたからね。絶対に無いです。そして仕事を失うのですよ。職なしで、それでもそれには触らない。・・・『壁をホースの水で流したかい、(名前)？』と聞くと、彼は『いいや。何のために？』と来るのですよ。」

その他のメンテナンス、63 歳、SME 従業員、非住居建築物取り扱い

意図的なもみ消し工作

何人かの回答者たちは自らが目撃し、否定する以下のような出来事について語った。

- 発見された石綿の隠匿
- 低技能労働者を無資格で石綿除去に携わらせた
- 不適切に石綿を扱う個人住居所有者
- 廃棄に関する諸問題

これらの情報全てに共通な一つの要素は、「有罪者たち」は石綿の存在をはっきりと知っていた、と回答者たちが思っていたことであった。数人の回答者はまた、石綿は建物から取り除かれたと言われていたのに、実は石綿はいくらか存在しており、結局作業者たちが石綿にさらされていたことについて語った。

例 11：蓋をしておけ

何人もの回答者が、現場で仕事をしている間に石綿が発見され、しかし状況が評価される間一時的に、または永久に、何らかの方法で口封じをされた例を示した。このことは彼らを激怒させた。作業者たちは時折、最近改装されたばかりの建物に石綿を見つけ、前の請負人が石綿の存在を報告していなかったか、またはその物件を石綿登録簿に加えなかったのだということに気付いたのである。

「私たちが作業をしていたこの建物で、それは（名前）の学校なのですが、私達は一つの翼をやっていたのですが、もう一つの翼は前の年に作業してあったのですが、誰も石綿を発見したことを報告しなかったのです。だから、私達は、そんなことをした請負人は、石綿に出くわして、無視して自分の従業員に損害を与えたのだと察しました。それで、もしその従業員たちが私たちのように文句を言わなければ、それまでの話です。」

その他のメンテナンス、63 歳、SME 従業員、非住居建築物取り扱い

例 12：低技能の人夫の利用

多くの回答者たちは、低技能の人夫が石綿除去のために雇われており、またそれらの人々がしばしばごく最低限の保護やトレーニングしか受けていないという最近の出来事について回想した。

「心配なことに、私が雇われている人なんですが、彼はその仕事に石綿が関っていることを知っているんです。でも石綿が関っていても気にしていられないんですよ。彼は石綿の危険や専門的に石綿を取り外す費用のことも知っています。それで彼がやったこと言ったら、彼はたくさんの・・・、その仕事に関っている連中の半分は雇われずに作業しているんですよ。現金暮らしとか、そういうのです。彼らは石綿の取り外しを喜んで引き受けるんです、多分石綿が自分に何をするかということは知らずにね。でも彼は知っているんです。そして石綿をオイルタ

ンクにしまっておくのです。古いオイルタンクなんです。オイルタンクに石綿を全部取っておくなんて、隠匿するつもりなんですよ。それが彼の考えです。」

電気技師、55 歳、住居、非住居建築物取り扱い

ある別の人は、フラットを改装中に石綿パネルを見つけ、その現場のマネージャーに報告したことを思い出していた。しかし彼らは期待していたような反応を受けなかった。

「ええ、そうです、彼らがそのことを話していたのですが、なんとまあ、これは石綿だ、うちは石綿チームに払う金はないから、人夫を雇って捨ててもらおう、と言っていました。」

大工/指物師、54 歳、個人業者、住居、非住居取り扱い

6.7 主な問題点

個々の人々は石綿のある環境での作業の一連の経験について議論することができた。それらの経験のいくつかは、知らず知らずのうちに、または意図的に危険を否定したために石綿曝露の可能性ができてしまった状況に関するものであった。さらによくあったのは、いくつかの手順は踏んだもののそれらが不完全で、曝露に至っていたかもしれない、という出来事であった。それにもかかわらず、より最近のほとんどの経験は、個々の人には比較的安全であると見なされていた。もっとも一般的な保護法は、作業を一時停止、または停止すること、不必要な繊維の放出を避ける、個人保護具を用いる、または材料を湿らせる。全体的に作業者たちの経験は、自分たちが詳細な処理上の知識を欠いていたことが特徴であった。また正しい処置についての情報を、他の人から得ようとする人が多かった。個々の人々が正しい手順を踏もうとした例、しかしそのことが現場で優勢な文化と決裂すること、または同僚に立ち向かうことを要した例があった。人々が、自分が適切に行動をしたと感じる場合は、きっと経験を共有したいと思ったであろう。よって危険な行動がどのくらいより広く広まっているかは定かではない。

第7章. 既存の情報の有用性

「これらの悪口を言ったりはしませんよ。これは人を教育するための努力ですからね。ありがたく思いますよ。でもね、前に言ったように、私はこういうもの（文書の情報）に容易に刺激を受けないのですよ。だから個人的には刺激を受けない、私にとっては最高の学習方法じゃないです。」

電気技師、34歳、個人業者、住居建築物取り扱い

議論された悪い習慣の例や、石綿のある環境での作業で良い習慣を採用する際に作業者が直面する困難を前提とすると（第6章に概要が示されてある）、人々が石綿の危険の性質について受けるしばしば入り混じったメッセージ（第3章を参照のこと）と合わせ、作業者たちが安全衛生庁の制作する情報をどのように見るかを理解することは非常に大切である。この情報は、潜在的に公平で、最新の、そして事実に基づいた正しいアドバイスの重要な源となりうるものである。インタビューの最中作業者たちは、石綿警戒カードそして石綿に関して安全衛生庁が制作した情報のリーフレットという形で、安全衛生庁の材料の例を紹介された。彼らはこれらをかつて見たことがあるかどうかコメントするよう依頼された（もし見たことがあると答えたら、どのくらい有用であると考えるか聞かれた。またもし見たことが無い場合は、あれば有用と思うか、問われた。）これに続き、石綿に関する情報を得たいと思ったら、どのような情報源を選ぶか、そしてそのような形式でこのような情報が供給されればよいと思うか、ということに注目した討論を行った。この章では、作業者たちのこの話題に対する反応の分析を行う。

7.1 安全衛生庁の情報に精通する

大多数の回答者は安全衛生庁の警戒カードや石綿のしおりをそれまでに見たことが無かった。回答者の4分の3ほどがインタビューで見せてもらうまで安全衛生庁警戒カードも石綿のリーフレットも見たことが無かったが、小数の人々が石綿のシンボル（警戒カードの表に示されてある）が石綿を含む建物についているのを見たことがあった。

「このシンボルは馴染みがありますよ、石綿シンボルはね。でもこのカードは見たことが無いなあ。」

電気技師、34歳、個人業者、住居建築物取り扱い

「似たようなもので黄色いのが壁や石綿が入っているものに付いているのを見たことがあります。」

電気技師、43歳、大企業の従業員、住居建築物取り扱い

同様に回答者の4分の3が、安全衛生庁が制作した石綿のリーフレットを見たことが無かった。しかしながら少数の人々は、石綿に関する他の文書による情報、または安全衛生庁によるその

他の健康関係の問題についての情報を、作業現場で、または自分で発行元を調べた時に見たことがあると述べた。

7.2 安全衛生庁リーフレットや警告カードへの反応

作業者たちはより多くの石綿全般に関する情報を得るという考え、特に安全衛生庁のリーフレットと警告カードに対して積極的であった。何人もの回答者たちは公正な情報、そして代替製品や石綿除去サービスを主たる関心事とする会社により供給されるものではない情報へのアクセスを持つことは重要であると感じていた。よって安全衛生庁からの情報は特に歓迎されていた。安全衛生庁が制作する情報は自分の持つ知識の復習として、または石綿について自分、または同僚たちが詳細な情報を要する場合の参照点として便利であると考える作業者もいた。

全般的に合意を見たのは、その話題について情報をより多く持つほど、

- 石綿のある環境で作業をすることの危険についてよりよく理解できるようになる
- 現場で作業をする際、石綿により気付き、識別できるようになる
- これらの活動につき物の危険から自らを護ることが出来るようになる
- 石綿含有材料のある環境で作業をすることが避けられるようになる
- 現在の最善の処理に従うことが出来る

「それは自分でものを識別することさえできれば、正しい方向に向けてくれます。」

配管工/ヒーティング技師、60 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

「ちょっとばかり自信が無いときや、誰かに質問されたとき、参考にすることができます。」

大工/指物師、42 歳、個人業者、住居、非住居建築物と取り扱い

「連中に見せるのに使いますよ。」

その他のメンテナンス、48 歳、大企業の従業員、住居建築物取り扱い

「もし石綿があるとわかっている所で作業をしていたら、これがあることを知っているから、調べて、『ああ、そうか』となりますよ。」

塗装工/装飾工、48 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

年配の作業者たちは安全衛生庁の材料は、これまでの職歴において石綿のある環境で作業をする経験がより少ない、若年の同僚たちにとって重要であると感じる傾向が見られた。少数の年配作業者たちは、その職歴の中ですでに石綿に曝露されているので、彼らにとってはもう手遅れだと感じたいため、石綿についての情報を受けることに関心を示さなかった（この報告書の

いくつかの前章において採り上げられてきたテーマである)。したがって、安全衛生庁がこれらの個人たちをどの程度対象にするべきか定かではない。

「これはこの業界に入る人達、見習い、そういう人達にとっては便利ですよ。多くの年配作業者は、彼らは単に危険を受け入れる傾向があります。」

塗装工/装飾工、個人業者、住居建築物取り扱い

全体的に、回答者たちは安全衛生庁が書いた材料の形式や、中に含まれた情報について前向きであった。インタビューを受けた人々のうち何名かは、彼らは仕事の間は非常に忙しいので、最初に読むためにリーフレットを取る気が起こらなくならないように、書かれた情報の読むところが多すぎないようにすることが大切であるという点を挙げた。写真の使用は石綿が見つかる可能性のある現実の状況を見せ、また書かれた文書を用いること無しに多くの情報を伝えられるので、その使用は人気があった。

「もしこれが私のところに届けられたら、実際はいろいろなことを差し置いて読むようになる。だから、そんなの読む時間はないと思います。」

塗装工/装飾工、35 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

「この小冊子の利点は、そうたくさんはないと思いますが、石綿に関する写真ですね。」

その他のメンテナンス、48 歳、大企業の従業員、住居建築物取り扱い

「写真は多すぎるということはないと思います。もっと石綿について知ることが出来る・・・写真はたくさん必要ですよ。」

その他のメンテナンス、48 歳、大企業の職員、住居建築物取り扱い

そのリーフレットのことをよく知っている人は様々なところでこれを見つけた。それらは、

- 卸売り店、または工務店
- 安全衛生庁ウェブサイトからのダウンロード
- リーフレットが置かれていた、作業現場の休憩室
- 石綿トレーニング中

7.3 石綿関係の情報の入手法

作業者たちは、自分にとって石綿を取り扱う際に重要なことの一つは、石綿に関する情報が、自分が必要とする形で必要なときに入手できることであると感じていた。また何人もの作業者はまた、これに限らないが、例えば石綿など、健康安全問題に関する情報が当然のように規則的に送られると便利だのだが、と感じていた。彼らは、情報を探す義務が彼らに課せられるべきではないと考えていた。もし作業者たちが自分から率先して情報を探さずに済めば、もし彼らが送られてくる情報に反応するだけでよいなら、行動に変化を起こす上で障害となるものの

一部は減るかもしれないと、皆共通して感じていた。

「・・・自分で情報源を探さなくてはならない、彼らは送ってくれないですからね。送ってくれるといいのだけど。送って来ないから、自分で探さなくてはならないのです。」

大工/指物師、35 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

「・・・こういうものは自分の家に届けてもらった方がいいね。」

配管工/ヒーティング技師、55 歳、個人業者、非住居建築物取り扱い

「僕は怠け者だから情報探しなんてできないよ。だから誰かが働きかけてくれれば、そのほうがいいね。」

電気技師、34 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

実際には、全ての建設/メンテナンス作業者に規則的に大規模の郵便物送付を引き受けることは、非常に大きな、費用のかかる複雑な作業である（電子的な方法が費用を少し減少させたとしても)。しかしながら、作業者たちは情報がどこで見たり入手できたりすれば最も便利か、ということについていくつかアイディアを提供した。以下はそのうちのいくつかである。

「つまり、現場に送ったり、手引きとして、意識向上リーフレットみたいな手引きとしてもらったり、というのが良い考えだと思います。」

電気技師、34 歳、SME 従業員、非住居建築物取り扱い

「こういうのは本当に私達のとこの掲示板にあるといいね。皆が見て参考に出来る。」

電気技師、43 歳、大企業の従業員、住居建築物取り扱い

「もしこれらが卸売業者などに配布されて、そのカウンターに置いてあれば、私みたいな連中も見るようになる。」

電気技師、55 歳、個人業者、住居、非住居建築物取り扱い

「掲示板があればちゃんと見ますよ、ええ。もし掲示板のある現場にいたら、これらを貼るでしょう。」

その他のメンテナンス、63 歳、SME 従業員、非住居建築物取り扱い

7.4 異なる形態の情報を利用する

ほとんどの回答者は安全衛生庁が提供する文書による情報に対して前向きであったが、様々な形態の情報を提供することも便利であると感じていた。明らかに情報が視覚的に表されている方を好む回答者が何人もいた（たとえば DVD やテレビなど)。健康安全の情報を読む方が良いという人達の間でも全般的に、もし情報が幅広い種類の形態で普及されれば、より多くの人に行き渡るであろうと感じられていた。文書による形態が大切な基礎であると考えられてはいたも

のの、全ての作業者に適切であるとは思われていなかった。

「正直に言って、書いてあるのが一番いいと思いますよ。・・・新聞とラジオがいいですよ。大工は新聞読むし、一日中ラジオを聴きますから、それらはいい考えです。でも毎年復習材料が郵便で来ると良いと思います。」

大工/指物師、35 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

ビデオは情報を分かち合うための便利な方法として、何人もの回答者により提案された。それには、人々に石綿がいかに危険かということを悟らせるという意味で、「ショック戦略」や、見たくないような映像を使うことも有用かもしれないというコメントもいくつか含まれていた（第 3 章でもこのことが論じられている)。インターネットもまた、情報を収集の場として人気があった。また多くの人の間で電子的情報源はこの先数年のうちにさらに人気が高くなるであろうと、意見が一致していた。しかしながら、個々人が非常に特定的な問いの答えを求めてインターネットに頼るということが示唆されていた。業界誌や店は、自分の家で使うために材料を購入する業界外の人達（つまり「DIY(Do It Yourself)する人」）にも行き渡る可能性があるという、付加的な利点もあり、メッセージを分かち合う別の方法と考えられていた。

「写真とかそのようなものや、人に実際に見せることが出来るようなものがあれば、ショック戦略はきっと上手く行くと思いますよ。それは、基本的には起こりうることなです。私はそれが一番の方法だと思いますよ。」

大工/指物師、33 歳、大企業の従業員、住居建築物取り扱い

「人が死ぬ怖いビデオで反応を強め続けて、皆しまいにノイローゼにならないといいけどね。」

設備工、45 歳、大企業の従業員、住居建築物取り扱い

「今どきインターネットだよね、僕はそう思うけど。安全衛生庁のウェブサイトとかそういうの、彼らはそういうタイプのものをやると思いますよ。」

電気技師、34 歳、SME 従業員、非住居建築物取り扱い

「B & Q（訳注：日本のホームセンターのようなイギリスの有名な小売業）や家庭みたいなところを介するとよいと思う。皆が電気下請けや、大工じゃなくても、石綿が使われうる住居はたくさんあるに違いないからね。それに自分の家で作業をする、DIY に熱心な人は大勢いますから。彼らはきっと石綿に接触していると思いますよ。」

電気技師、55 歳、個人業者、住居、非住居建築物取り扱い

特に石綿を含む材料の例と、石綿が発見される可能性の高い場所についての情報が関係しているところでは、トレーニングも、提案されたものの一つであった。トレーニングは特にこれか

らその業界に入る人々や、石綿のある環境で長年作業をしていない人々にとって最も大切であると思う人が何人かいた。少数の回答者ではあるが、労働組合は便利な情報源であると思う人もいた。

「正直に言うと、私だったらコースをとると思います。コースをとったら、少なくとも座って聞かなくちゃならないですからね。これに関しては、私は考え方が古いんです。私はあんまり吸収力の無い方なのでコンピュータのこととなると怠け者だから、座って人のいうこと聞かないといけないのです。」

配管工/ヒーティング技師、60 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

何人もの回答者は、情報は政府のキャンペーンとして入手可能にすべきであるという点から、石綿を他の健康問題になぞらえていた。よくある例は、石綿と喫煙の関連付けであった。

「大掛かりな教育プログラムが必要です。どうやって喫煙、暴飲や飲酒運転をいかにして止めるかというのと同じ系統の大掛かりな政府とかの教育プログラムが必要ですよ。」

その他のメンテナンス、63 歳、SME 従業員、非住居建築物取り扱い

「やらなければならないのは、それを避けることができないところに置くということですよ、新聞の中にせよ、テレビにせよ。つまり、高くつくのはわかっているけど、テレビは要点を伝えるにはとてもいいです。」

その他のメンテナンス、30 歳、SME 従業員、住居、非住居建築物取り扱い

「私なら政府が印刷物を作って、全ての建設会社や、石綿に接触のありそうな人全てに知らせるべきだと思いますけどね。」

配管工/ヒーティング技師、55 歳、個人業者、住居、非住居建築物取り扱い

7.5 強化の必要性

作業者たちが語ったいま一つの問題点は、情報を供給しても、個々の人が実際に行動を変える程度に影響する因子が他にもさらにあるということであった。まず、情報が個々の人に与えられたとしても、それを読み、受け入れるかどうか。そして、それに続き自らの行動を適宜変えるかどうかはその人次第であるということである。作業者たちの多くは、人は情報を読んだ直後は行動を変えるかもしれないが、比較的短い時間のうちに前の悪い習慣に戻ってしまうだろうと考えていた。よって、行動を変えるには頻繁にメッセージを強化することが大切であると見なされていた。同様に、石綿に関する知識の適切なレベルと行動の変化を維持するためには、復習コースが重要な要因であると述べた回答者が何人もいた。

「ああいう映像を仕事で一緒の人と見たのだけど、その結果最初の 6 ヶ月はよく覚えていたのですが・・・効果はだんだん消えちゃうんですよ。」

整備工、45 歳、大企業の従業員、非住居建築物取り扱い

「多分彼らは今よりももっと頻繁に石綿について教わるべきですよ。言ったように、私達は一回しか講義を受けていないのです。もっと頻繁にやるべきだと思いますよ。」

整備工、45 歳、大企業の従業員、非住居建築物取り扱い

「人々が思い出すように、二年に一回石綿コースをするべきだと思います。フォークリフトのトレーニングを 4 年ごとに受けるときの復習のように、どのくらい深刻なことか人々に思い出させるようにね。」

その他のメンテナンス、47 歳、大企業の従業員、非住居建築物取り扱い

作業者たちやその同僚が、重要な情報を得たとしてもさらにそれを充分利用するとは限らないということに関して語る場合が多かった。また、例えば雑誌に記事が載っていたとしても、他により関心のある記事やより主要な記事があって、読まないかもしれないなど、重要なメッセージを必ず拾うのは難しいと感じられていた。

「ある程度は、人は引き出しの後ろに突っ込んで忘れてしまうのですよ。」

整備工、45 歳、大企業の従業員、非住居建築物取り扱い

「現場では無知がはなはだしいのです。これらのものも結構なことだし良いけれど、きっと現場の人の 60%から 70%はわざわざ読みもしないですよ。」

大工/指物師、33 歳、大企業の従業員、住居建築物取り扱い

「・・・自分が読みたいところだけ読むでしょ、端から端まで読むのではなくて。だからその中のものを見逃すのですよ。」

配管工/ヒーティング技師、57 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

7.6 情報共有の将来の可能性

個々の人々は将来石綿のメッセージにどうあって欲しいと思うか、例を提示するように依頼された。数多くのアプローチが提案された。人気が高かったアイディアは、作業者たちに潜在的な危険について伝える手段として、よくある石綿含有材料と、いかにしてそれらの問題が日々の作業の中で起こるかということを示す写真の使用であった。二人の回答者は、人々に石綿含有材料の見分け方を教えるために、さらに進んで、石綿の擬似サンプルや、密封容器内に入れた石綿サンプルを提供することを提案した。この章の全部ですでに述べた通り、何人かの回答者たちは、おそらく禁煙キャンペーンと似たような性質の、一般の人々に及ぶより大掛かりなキャンペーンの必要性を感じていた。

「それを見るか、それらをシュミレーションしたもの・・・それが私の提案です。誰か

が時間をかけて石綿に似たサンプルを作るのですが、きっとそれが一番効果的な方法ですよ。小さなサンプルを・・・人々に見させてあげるのです。」

電気技師、31 歳、個人業者、住居建築物取り扱い

「これが良いと思う、つまり喫煙と同じように出来ますよ。人々の、どうやってそうなったかという経験を公開すれば・・・。人は、石綿でいっぱいの部屋に何時間も座っていないと（病気に）ならないと思うことがあるけれど、そんなことは無い、一個の粒子でなるのです。人々を助けるために、そのようなことを利用することが出来ると思うのです。」

大工/指物師、42 歳、個人業者、非住居建築物取り扱い

「一人の男がこんなこと言うのはひどいものですが、本当に効果を発揮させたいなら、これを男連中の奥さんたちに送るべきですよ。奥さんたちに送れば、彼女たちが心配するでしょう。がん検診みたいなものですよ。奥さんたちの方が女性誌とかそういうものに載っている、自己検診とかするべきことについて旦那やパートナーに働きかけると思います。」

整備工、45 歳、大企業の従業員、非住居建築物取り扱い

7.7　主な問題点

リーフレットや警告カードは回答者に評判が良かった。サイズ（限られた文章）、写真や気が付きやすい警告サインは全て人気があった。しかしながら、本研究に関った人々のほとんどが安全衛生庁の文書による情報を見たことが無かったが、そのことはさらに行き届いたキャンペーンが必要である可能性があることを示唆する。

作業者たちは大規模な、国家的市場調査が持ちうる、意識への影響について確信を持っていたが明らかにそのコストインプリケーションが見られる。「禁煙」タイプのアプローチが広く提案されたが、多くの作業者たちは将来の情報共有は、建設/メンテナンス業で働く人を対象とするに過ぎない可能性があると思っていた。情報がこの部門で働く人々に効果的に届くには、様々な形態を採用し、混在型の社会の多様なニーズにあった情報を発展させなくてはならないことは明らかである。

第8章. 結論

ここまでの報告の詳細は個々の人々の行動に影響を及ぼす、複雑な一連の因子があるということを明らかにしている。それらの因子は、未来のトレーニングや情報の共有が効果的であり、安全行為の障害となるものが克服されるには、全て考慮に入れる必要がある。

これらの全てをこの最終章でまとめるため、今回の調査でインタビューを受けた人々の行動モデルを見出すべく、現存の心理学理論の基本原則を検討してみた。我々はまたこのモデルが、安全な作業を促進するための未来の試みにとってどのような意味を持つのか議論した。

8.1 メンテナンス作業員への影響

インタビューを受けた作業者たちの詳細な回答の範囲では、彼らの行動は一連の因子により影響されていた。これらの因子のそれぞれが一個人に当てはまる程度は、その人の状況や考えにより明らかに異なるであろうが、我々はここに最優先のテーマをいくつかまとめることを試みた。

8.1.1 技術的な問題

作業者たちがその労働生活において直面するその他の危険とは別に、特定的に石綿の扱いに関係した一連の技術上の問題がある。それらは以下のものを含む。

- 石綿は様々な形で存在する材料であり、その危険については今でも調査が進行中である。石綿はまたその他の材料と混ぜられて、広大な数の石綿含有製品を形成する。
- 石綿は確信を持って識別するのが難しい。これを検査するのは困難な技術的プロセスであり、外部の専門家の利用も含む、その材料の存在を確認するために必要な専門的な検査手順がある。
- そのタイプの材料が石綿を含むか、という一連の知識、用いるべき最高の保護具、そして従うべき正しい処理方法は、石綿のある環境での作業に関る危険を適切に扱うことができるようになるために必要である。
- この問題に関係したトレーニングにアクセスの無い人もいる一方、その他の人々は自分の受けたトレーニングが自分の目的にあっていないと感じたり、しばらくトレーニングを受けていなかったり、または最新式の方法に関するトレーニングを受けていなかったりした。個々の人々の知識はしばしば異なる出所からの情報を基礎にしており、何が適切な行動で、何がそうではないかということに関する相反する情報の影響を受けやすい。

8.1.2 心理的要因

さらに、危険や全般的な健康に対する姿勢などの心理的要因もまた、一つの役目を演じている。さらに詳しくは、これらの因子は以下のものを含む。

- 個々の人々がある問題点について漠然とした不安を抱いている場合、またその問題に対する知識の欠如を伴う場合、状況を取り扱うのは困難である可能性がある。このことは自分の石綿に対する姿勢をいかに多くの人々が語ったかということと一致する。石綿は危険であるというメッセージははっきりとしているが、いかにして見分けるか、またいかにしてこれを取り扱うかということはそれほどはっきりとはしていなかった。従って、人々は内心、石綿が彼らにもたらす危険を縮小させようとしてしまうのである。彼らは従って、出所がどこであれメッセージに賛同してしまい、危険を軽んじることになる。
- 石綿が喫煙のように深刻な健康状態を引き起こすかどうかは、しばしば宝くじに例えられていた。確率の要素を信じ込むことにより、人々はその危険が自分のコントロール可能な範囲外であるということを忘れてしまう。それとは対照的に、もし人々がごくわずかな曝露も致死的であり得ると思う場合は、彼らは自分を保護するにはもう手遅れであるとして、何も行動を起こさないことを正当化する可能性がある。石綿の危険に対するより良い情報は、かつてはそのようにしてしまったとしても、将来人々が無防備に危険を冒す可能性を減少させるのに役立つと思われる。
- 石綿による健康への危険は比較的ぼんやりしている。人々が自分たちの仕事について述べるように、彼らには特定的な情報を入手する手段が無い。しかしこのことは、すばやく、または安く仕事をしなければ、そのようにしないことによる結果に直面しなければならない（これは例えば仕事を失うなど、非常にはっきりと目に見えるものである)、という、人々に課された非常に現実的な要請との競争となってしまう。
- 曝露から健康に確認可能な結果が現れるまでの時間は最高 60 年である。この危険の長期的な性質は、人によっては認識するのが難しい可能性があり、特に若い人々にとってはそうである。
- 人々はしばしば石綿曝露のネガティブな側面ばかりに注目し、例えばそのコントロールのよりポジティブな面を見ない。または異なる石綿の詳細に注目し、石綿があったらどうするかという実用的な面を見ない。このことは彼らが受けたトレーニングのためかもしれないし、または人々が最も受け入れやすいメッセージを反映しているのかもしれない。
- 他の理由と同様これら全てのために、石綿関連疾患を身近に感じることにより、適切な行動をとることによって起こりうる経済的な結果に直面できるくらい、真剣に危険を捉える意識と傾向を促進する可能性がある。石綿のもたらす結果にさらされることは、それにまつわる健康への危険の真の性質の復元として強力な効果を持つかもしれない。

8.3.1 文化的な影響

特に建設業界に関係した、行動や雇用者、仕事仲間、クライアントの優先順位など、一連の文化的因子が存在する。これらは個人に様々な影響を及ぼす。

- 労働衛生は、建設業界においては労働安全ほどには注意を払われていない。人々はより一般的であり、かつはるかに直結的な結果を伴うと思われる、高所からの墜落や機械による怪我

などの、その他の危険により注目する傾向があるため、そのことが石綿にとっては問題となっている。従って石綿は建設業界では「優先的な」危険性とは理解されていないかもしれない。

- 男らしさを誇る文化が優勢となっており、そのことが、かなり基本的なヘルメットや耳を保護するものなどの保護具を見につけるか否かなど、あらゆる安全行為に影響を及ぼす。従って石綿に対する姿勢はこれに影響される。危険管理策は作業の邪魔になるため、保護具の使用を避けることは、文化的により受け入れられている場合もある。
- その他の形態でも危険が否定されており、それらについては幾とおりにも現されている。例えば、石綿が全ての人々に危険をもたらすという事実を根拠に、メンテナンス作業そのものは危険ではない、その他の業界の作業はより危険である、または単に危険性の規模が非常に過大評価されている、などである。
- 便利な手本役や、行為を阻止する可能性があるものとしての年配の作業者の役目も重要である。より経験を積んだ作業者たちは一連の健康安全問題に関する、実用的かつ経験的な情報である。もし彼らが安全な作業を促進すれば、より経験の浅い作業者たちもそれに従うように促せるだろう。
- 雇用者や、現場の責任者たちも演じるべき役割がある。もしスタッフが健康安全全般、特に石綿、に関して積極的に発言するようになれば、人々が自らの健康を護るための行動をとることに対して、自信を持てるようになるだろう。しかし、もし雇用者が良い安全文化を促進しなければ、ネガティブな結果が生じる可能性がある。
- 最後に、しかし最も大切なことに、建設とその関連の業界内では（他の産業と同様）経済的因子に注目が集まっている。競争は厳しいこともあるし、時間は金である。多くの人々が臨時、または下請けとして雇用されているので、仕事の停止は、たとえ一時的でも彼らにとっては賃金を失うという結果になる。従って、文化的に、雇用者だけではなく仕事仲間も関係した一連の因子が作用している可能性がある。

8.1.4　個人のコントロール意識

仕事において、そして特に作業の危険性やまたは石綿と関連して、自分の運命を管理できると個々の人々が感じる程度は、一連の因子に関係しているようである。それらには以下のものが含まれる。

- その個人が大企業の従業員であるか、自営であるかということ。これは個々の人々が、自分の仕事環境において発揮できると感じるコントロールの程度に影響するが、また石綿の可能性のあるものの発見を報告できる明らかな術がどのくらいあるかということにも影響する。大きな現場における自営業者は、そのような状況では下請けであることが多いが、契約先の会社の従業員と比べると、比較的無力に感じる可能性がある。会社の従業員は大きな現場では自分たちが最も優勢であると感じることが多いと思われる。
- 自分の職場環境について精通することも含め、個人が自分のすべきことを知っている程度と、

それに対して自信を持つ程度。もし作業者たちが、自分が置かれた作業環境に関する最新で重要な知識を持っていれば、自分がするべきことについての知識がない場合、または非常に限られている場合にくらべて、はるかにコントロール意識が強くなる可能性が高い。これには、第一に石綿の識別能力が含まれる。

- 個々の人々が、現場で自分の立場をどう感じるか。年配の作業者は、熟練作業者として、一般的により尊敬されており、これらのグループは、現場での立場が弱いと感じている人々より石綿の危険について積極的に発言するのに優位な立場にあると感じているかもしれない。

8.1.5　これらの因子はどのように相互作用するか

これらの因子はどれ一つとしてそれだけでは存在しない。また、個人の自分の行動についての決断方法も、そのたびに一連の影響により左右されやすい。安全な行動に対する姿勢は、個人が今石綿を安全に扱うことによるネガティブな影響（例えば経済的な費用）が、自分の健康に対する長期的なポジティブな影響で相殺されると考えるかどうかにかかっている。さらに雇用者や自分が作業する現場での優勢な安全文化もまた（特に石綿やその危険をめぐる、同僚やクライアントの考え方や行動の仕方と共に)、行動を形成する上で重要である。また現場での石綿の扱われ方をコントロールできる程度に対する個々の人の考えは、彼らの技能、現在自分がいる作業グループにおける立場、および雇用形態の性質による。

よって人々はできるだけ安全に石綿を扱おうと、積極的に意図するか、または危険を無視し、知りながら危険な行為を引き受けることを意図するか、という点に至る。しかしながら、たとえ意志はあったとしても、実際に安全に行動するための知識がどの程度充分発達しているかということも一つの因子となる。安全衛生庁は、例えばすでに制作してあり、また作業者たちにも人気のある材料をさらに広範に配布することを通じて、個々の作業者がその知識を向上させることを積極的に助けることができる。さらに、安全衛生庁はまた建設/メンテナンス業界の雇用者たちが、石綿がもたらす継続的な危険性についての事実全てを与えられることを確認する役割がある。彼はその他の重要な影響力（例えばより熟練した作業者）とともに、安全文化を改善するための有利な立場にあるようである。

8.2　前進

石綿に対する姿勢を形成し、社会の基準を変え、人々が職場での健康安全をコントロールしていると感じられるように助けるに際して重要な因子は、人々に、安全な行動となるもの、ならないものについて自分なりの決断ができるように充分な情報を供給することである。これは彼ら自身の危険に対する姿勢や、その労働力や個々の仕事における資本により、より複雑なものとなってしまう。しかしながら、与えられた情況の中で自分が適切と思える行動について合理的な決断ができるように、自身の行動の結果をよりよく理解することが肝要である。

人々の間では、例えば異なる石綿の種類など、石綿のトレーニングの（トレーニングを受けたことがある場合）より技術的な面に注目し、石綿を正しく扱うという実用的な面には注意を向けない傾向がある。よってこの後者のタイプの情報は、より効果的なトレーニングの基礎をなすべきである。これらのメッセージの強化もまた、それらが優先的であり続けるように、規則的に行われなければならない。

危険性の規模に関するより良い情報もまた、個々の人々が、石綿が彼らにとって重要な問題であるか、またはいかに重要であるかということを評価するのを助ける上で有用であろう。これらの作業者たちには上手く届いた「石綿は命取り」という基礎的なメッセージから、「何人、そしてどのように（殺すのか）」というより詳細なメッセージに移行することが有用であるかもしれない。例えば現在の喫煙に対する警告は、かなり不明瞭なメッセージに集中している（例えば、喫煙者は若死にする）いるが、明瞭さの欠如を批判されている（例えば、より特定的な、喫煙者は平均 10 年早く死ぬ、のようではなく）。この明瞭さこそが人々に危険を真剣に受け止めるようにさせるものである。
以前の市場調査と意識向上キャンペーンは、安全とは言えない状態で石綿のある環境で作業をすることが、いかに危険であるかというメッセージを伝える上で大成功であった。優先事項は、作業者たちに自らを護る方法に関するより詳細な知識を供給することに集中し続けることである。現在の資料は回答者たちによく受け入れられていたが、彼らのほとんどに届いていなかった。よって、問題は再デザインすることにより、現存するものを再配布することかもしれない。詳細な情報を参照する必要が生じた場合、文書資料を持っていることは非常に大切である。しかしながら、その他のメディア（例えばインターネットや E メール）は多様な労働力を支援するために一層必要となるだろう。しかし作業者たちは、一般的な情報よりも特定的な問いに対する答えを求めてこれらのメディアを参照する。従ってこれらを適切にデザインすることが大切だろう。例えば石綿に関する視覚的な映像を用いることは、大変人気の高い情報共有の方法であった。

作業者たちへの社会的影響力を持つものは多くある。彼らの家族、友人、同僚、管理者は全て行動形成に役割を演じるのである。特に年配の作業者は、石綿の問題に関するアドバイスや、彼らが見聞きしたことのある、彼らの現在またはかつての同僚に影響を及ぼした病気の知識など、情報の源と見なされている。しかしながら、年配の作業者自身も限られたことや、場合によっては迷信しか知らないかもしれないということも認めなければならない。これらの非公式な社会的ネットワークに接続することも、行動を促す方法として有利であるかもしれない。特に、年配または退職した「石綿代弁者」として採用することも有用な戦略かもしれない。

補遺１：討論の手引き

導入

自己、同僚を紹介し、彼らに参加を感謝する。

*プロジェクト：*私共は独立非営利的調査会社、雇用研究所に勤務しております。私共は安全衛生庁より、あなた方のような作業者の方々が石綿についてどのように考え、また石綿に伴う危険からご自分の身を護ることが困難であると感じさせるものがあるかどうか、ということについて調べるよう依頼されました。私は皆様が、様々なタイプの石綿についてどのように考えているかということに関心があります。従って、私が石綿、と言う時は全てのタイプ、白、青、茶石綿をさしています。

*守秘性：*皆様とのインタビューで得られた全ての資料は、プロジェクト報告書には匿名で引用し、誰のことであるかわかるような言及は削除します。

*テープ：*皆さんがおっしゃることを正しく把握するために、インタビューを録音したいと思います。このテープは不要となりましたら消去します。よろしいですか？

*時間と退出：*1時間ほどかかりますが、よろしいですか？　インタビューはどの時点で停止して結構です。また提供された情報の使用の合意も取り消すことができます。

現時点でなにか質問はありますか？

背景

現在の仕事（サマリーシートを使用）

1．まず現在のお仕事について少し教えていただけますか？
   - 仕事先はどちらですか？　（個人 ptivate/公的 public）
   - 会社の規模は？　個人業者ですか？
   - 雇い主の主な職業と請け負う仕事のタイプ
   - 臨時/一時的/永久　雇用者との関係
2．あなたの時間のうちどのくらいの割合、民家（住居－賃貸用/家主居住？）で作業をしますか？　また、非住居建築物での割合は？
3．一人で仕事をすることが多いですか？　*いいえ、の場合：*異なる仕事を同じチームで仕事をすることが多いですか？
4．現場にはどのくらいの時間いることが多いですか？　あなたの仕事の規模はだいたいどの位ですか？

職歴

5．このタイプの仕事をどの位続けてきましたか？

6．個人業者として/臨時従業員として、この雇用者の下でいつも仕事をしてきましたか？　*いいえ、の場合：*

7．以前の仕事は現在の仕事とは異なりますか？　*はい、の場合：*それはどのように異なりますか？

トレーニング歴

8．どのようにしてこの系統の仕事を始めましたか？

- 正式な見習い期間はありましたか？
- カレッジのコースをとりましたか？

9．それ以来、何らかのタイプのトレーニングを受けましたか？どのような種類のトレーニングでしたか（仕事をしながらのトレーニング、または仕事時間外でのトレーニング）？またトレーニングにはどのようなことが含まれていましたか？

10. 最新の情報にはどのように追いついていますか？または、仕事における新しい技術をどのようにして学んでいますか？　*必要なら：例えば*

新しい製品や法律に関してどのようにして情報を得ますか？*のように促す*

- 供給元？
- 職場の仲間？
- 労働組合？
- 業者団体？
- 親方？
- トレーニング提供会社/カレッジ？

11. 安全衛生訓練を受けたことがありますか？（石綿に限らず全ての安全衛生トレーニング）？

- 安全衛生トレーニングで心に残っていることは？　それは何についてでしたか？
- それはいつのことでしたか？またそのようなトレーニングをどのくらいの頻度で受けましたか？

石綿の危険に対する姿勢

トレーニング経験から受けたメッセージ

安全衛生トレーニングだけではなく、これまでに受けた職業関係のトレーニングを全般的に振り返り・・・

12. トレーニングの一環として何か石綿について教わりましたか（初期、復習トレーニングの両方を含めて）？　**いいえ、の場合は次の見出しへ**

13. それにより、石綿に対する考え方が変わりましたか？　何か驚いたことはありますか？どのように驚きましたか？
14. そのトレーニングの結果、何かやり方を変えたことはありますか？
    - *はい、の場合：*何のやり方が変わりましたか？
15. 石綿について、または石綿のトレーニングについて、何が一番記憶に残っていますか？　石綿について覚えた主なメッセージは何ですか？

その他のメッセージの出所

16. あなたが一緒に仕事をしている人々を考えてみて、一般的に、あなたが一緒に仕事をしている人々は、石綿の危険性を真剣に受け止めていると思いますか？
    - 彼らがあなたにそう思わせることを言ったり、したりしたことの例は思いつきますか？
17. 雇用者との関係は大切：これまでに経験した親方たちについて、彼らは石綿を真剣に受け止めていると思いますか？
    - 彼らがあなたにそう思わせることを言ったり、したりしたことの例は思いつきますか？

コントロールの感覚

18. 他の職場での危険や健康への危険と一般的に比べ、石綿関連疾患は全般的にどのくらい深刻であると思いますか？
19. 石綿から自分の身を護れると思いますか？
    - なぜ護れると思いますか/なぜ護れないと思いますか？
20. 自分は石綿関連疾患にかかることを避けられると思いますか？
    - なぜ護れると思いますか/なぜ護れないと思いますか？

石綿との接触量

21. 職場では石綿を含む材料にどのくらいの頻度接していますか？（わからない、問い答えでもよい。それ以上探る必要はない。もしあいまいな答えになった場合は詳しく調べる：）　確認してもよいですか？　それは：
    - 毎日、またはほぼ毎日
    - 週に1,2回
    - 月に1,2回
    - ごくたまに
    - わからない
22. 石綿と最も接する可能性が高いのはいつですか？

意識と知識

一般的な意識レベル